

浅間山

八風山

香坂山遺跡

写真：大場正善氏撮影

香坂山遺跡の第3次発掘調査

令和2年9月 国武 貞克（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所）

【調査のねらい】

- ・日本列島における石刃生産技術の発生過程が、中央アジアから東アジアに至るユーラシアの同時期の石器群の発展と、どのような関係にあるのか解明することが最終的な目標です。
- ・このため石刃遺跡として最古の年代が得られた香坂山遺跡（長野県佐久市）で炭化物を採取し、列島の石刃生産技術の発生年代を精確に解明します。
- ・あわせて、最古の石刃石器群に関わる新資料を入手し、この時期の石器製作技術や技術組成を解明します。

【日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究B 代表国武19H01354）による調査です】



遺跡の位置 (赤丸)



始良Tn火山灰 (約3万年前)



石器包含層

第3次調査C区の土層堆積状況



香坂山遺跡は上信越自動車道の立坑地上施設の建設に伴い、平成9年に長野県埋蔵文化財センターによって発掘調査され、大型石刃を含む旧石器が390点発見されて、36,029-35,058 cal BPの年代が得られました。第3次調査区は平成9年調査のBL5区の北に2か所とBL6区の西に2か所設定しました。



写真：堤隆氏

D区

C区

第3次調査では70㎡発掘し、石器は約3万年前の始良Tn火山灰(AT)を含む層から約30 cm下位の地層から約300点出土しました。



C区で大型石刃の製作跡を検出しました。石刃核と剥片碎片を伴います。



大型石刃出土状況（長さ16cm、幅3cm）



大型石刃出土状況（長さ13cm、幅3cm）



大型石刃が剥離された石刃核が出土しました。



大型石刃素材の小石刃核も出土しました。



D区で尖頭形剥片の製作跡を検出しました。石核と剥片碎片を伴います。



第2次では大型石刃と尖頭形剥片が基本組成でしたが、第3次ではそれぞれの製作跡を検出しました。

【わかったこと；製作地点を検出】

- ・大型石刃と尖頭形剥片の製作跡を検出しました。
- ・これにより、この遺跡の基本組成が、第2次調査で推定した通り、大型石刃と尖頭形剥片であることが確かめられました。
- ・あわせて大型石刃素材の小石刃核も検出しました。

【課題；ユーラシアでの位置づけ】

- ・放射性炭素年代測定で年代を確定します。
- ・大型石刃と尖頭形剥片の基本組成を手掛かりにユーラシア全体の動向に位置付けます。



堤隆氏と須藤隆司氏に調査ご指導を頂きました。